

近年新たに販売された8月咲き小ギク品種の 電照による開花抑制効果と高温開花遅延の程度

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

1 部門名

花き-キク-生育調節

2 担当者名

高田真美

3 要旨

夏秋ギクでは需要期への安定生産を図るために露地電照栽培による開花調節技術が確立されている。しかし、消灯後の高温遭遇による開花遅延がみられており、開花期の安定には高温の影響を受けにくい品種を導入する必要がある。そこで、近年販売された8月咲き小ギク品種の電照による開花抑制効果（電照効果）と高温開花遅延程度を明らかにした。

- 電照効果が高い品種は、「精こうめ」「秀あさみ」「精かなん」「精こまき」「精しはく」「精しらあや」「精しらたき」「精しゆう」「精てんせい」である（表1）。
- 高温開花遅延が起りにくい品種は、「精しはく」である（表2）。

表1 8月中旬まで電照を継続した場合の10%発蕾日、無電照栽培での開花日、消灯後開花日数

花色	品種名	電照継続(〜8/中)での10%発蕾日			無電照栽培での開花日			電照効果	(参考)到花日数±標準偏差	
		2024年	2025年	評価 ¹⁾	2024年	2025年	評価 ²⁾		2024年	2025年
赤	精こうめ	7/10	7/18	○	6/25	7/2	○	—	50±3	55±2
赤	秀あさみ	—	7/11	○	—	7/19	○	—	—	56±2
黄	精かなん	—	7/18	○	—	7/10	○	—	—	57±2
黄	精こまき	未発蕾	7/24	○	6/29	7/9	○	—	58±3	66±2
白	精しはく	7/12	7/23	○	7/1	7/13	○	高い	50±3	54±2
白	精しらあや	—	7/8	○	—	7/18	○	—	—	49±2
白	精しらたき	未発蕾	7/19	○	7/1	7/11	○	—	49±2	54±2
白	精しゆう	7/6	—	○	7/12	—	○	—	54±3	—
白	精てんせい	未発蕾	—	○	7/2	—	○	—	66±3	—
赤	精ひさな	7/15	7/24	○	7/9	7/24	△	やや	53±2	59±2
黄	精なつか	—	7/29	○	—	7/22	△	高い	—	56±4
赤	精ゆつき	6/26	—	×	7/5	—	○	やや	47±3	—
黄	精はぎの	未発蕾	8/12	○	7/9	8/3	×	低い	54±2	63±4

—は供試なし

試験場所 福島県郡山市

電照方法 電照時間：23：00～4：00、資材：赤色LED電球(商品名：エコノライトNAG)

1) 評価基準 ○：十分に発蕾を抑制(7月上旬以降)、×：発蕾の抑制がやや弱い(6月下旬)

2) 評価基準 ○：需要期(7月下旬～8月上旬)より前に開花、△：需要期(7月下旬)に開花、×：需要期(8月上旬)に開花
※到花日数は、各消灯日(6/5, 10, 15, 20)の到花日数の平均値

表2 高温開花遅延日数(日)

花色	品種名	高温開花遅延日数	
		2024年	2025年
赤	精こうめ	31	11
	精ひさな	23	7
	精ゆつき	17	—
黄	精こまき	40	22
	精はぎの	35	27
白	精しはく	13	12
	精しらたき	22	15
	精しゆう	30	—
	精てんせい	55<	—

—は供試なし

※高温開花遅延日数は、露地条件と高温条件での開花日の差。高温条件は、施設において消灯前23°C、消灯後30°C換気で管理した(消灯後の平均気温(6/11～8/20)は2024年では25.2°C(露地)、28.5°C(高温)、2025年では25.8°C(露地)、28.9°C(高温))。実際に高温年に開花が遅れる日数ではない。遅延日数が小さいほど高温開花遅延が起りにくく、毎年の開花期が変わりにくい品種である。

4 成果を得た課題名

- 研究期間 令和6～7年度
- 研究課題名 花きの計画的安定生産技術の実証〔福島国際研究教育機構:農林水産分野の先端技術展開事業「社会実装促進業務」〕(JPFR25060110)

5 主な参考文献・資料

- 鈴木ら, 計画的な生産・出荷のための夏秋ギク栽培技術マニュアル | 露地電照栽培等による計画生産編(JPFR25060110)